

経営承継円滑化法を活用した、外部人材による第三者承継支援



現場作業風景

支援機関 えひめ産業振興財団（ビジネスサポートオフィス）

支援内容 事業承継（第三者承継）支援

事業者 **エイコー技研株式会社**

代表者名 代表取締役 高木 一成

業種 製缶・配管・機械器具設置工事業

所在地 松山市中須賀1丁目17番3号

設立 昭和59年11月

資本金 1,000万円

支援に至る経緯

取引先従業員の「この会社を引き継ぎたい！」という思いが出発点

エイコー技研株式会社（以下、当社という）は、昭和59年、創業者の篠崎潤一氏が「栄晃産業株式会社」として松山市太山寺町に設立、平成2年に現社名に変更、平成19年に本社を現在地に移した。創業時から一貫してビルメンテナンス・工事業を主業とし、昨今社会問題化している老朽建造物の診断・補強から改修までを一気通貫で対応できる事業者として、近年ますますその存在感を高めている。

建築業は美観と強度の両立、産業廃棄物の適正処理、環境負荷が少ない工法の導入、人材育成と働き方改革への対応など、新しい課題への対処を迫られている。先代経営者である篠崎氏は、次の時代に対応するため若い後継者への承継を模索していたが、同氏には娘しかおらず、現実的に親族内承継は難しい状況にあった。

当初は取引先企業へのM&Aも検討したが、当時その取引先の従業員であった現代表取締役の高木一成氏が、当社の状況を知り、ぜひ自分が後継者になって当社を引き継ぎたいと申し出た。しかし、第三者承継の知識は両者ともに乏しかったため、（公財）えひめ産業振興財団に相談があった。

支援の内容

「資金調達」と「従業員の理解」というカベを乗り越えるために

1. 経営承継円滑化法の活用支援

支援スタートにあたり、まず当社の決算書を確認・分析した。当社は長年にわたり安定した経営を続ける優良企業であり、ゆえに株価が高く、後継者が株式を取得するための資金調達が大きな課題になることが分かった。そこで、まず株式譲渡に向けた具体的な資金調達計画の策定に着手した。「経営承継円滑化法」を活用することで、日本政策金融公庫の事業承継融資を利用できるスキームを構築した。これに、愛媛県事業承継・引継ぎ支援センターや当社顧問税理士の知見なども加え、後継者がより円滑に株式を取得できる環境を整えた。

2. 従業員の理解醸成

経営の引き継ぎに伴う従業員の不安を払拭するため、先代経営者である篠崎氏の協力も得ながら、承継の意義や今後の経営方針について丁寧に説明を重ねた。社内の理解を得ることは承継成功に欠かせない要素と考え、人心の掌握に努めた。特に、長年勤める従業員の意識改革は重要な課題の一つであり、後継者のリーダーシップの確立に向けた助言・サポートを行った。

結果として、一部退職者は出たものの、新たな人材確保もでき、現在では新社長を中心とした強固な事業運営体制が構築されている。

支援の効果

承継に伴う課題解決の過程で、社内の結束が強まる

今回の承継プロセスでは、資金調達の壁や従業員の意識変革など、幾度となく課題に直面したが、後継者（高木氏）の強い意志と前経営者（篠崎氏）の協力のもと、一つひとつ課題を乗り越えた。その結果、当社内の結束が強まり、従業員と経営者がお互いのことをより深く理解したことで、業務運営がスムーズになった。

支援機関としては、「経営承継円滑化法」の活用による第三者承継が実現したことで、新たな支援ノウハウを蓄積することができた。また、愛媛県事業承継・引継ぎ支援センターや日本政策金融公庫松山支店などの関係機関との結びつきを強くすることができた。



承継を機に内装を一新したオフィス

今後の展開

安定した市場環境を追い風に、自己革新で新たなステージへ

ビルメンテナンス業は、今後も安定した需要が見込まれる業界の一つである。オフィスビルや商業施設、病院、公共施設などの建築物は継続的な管理が必要であり、人手不足と相まって、この業務に高いレベルで対応できる企業はこれからますます貴重な存在になっていく。

今後は、SDGsやカーボンニュートラル、業務DXへの対応が求められる。総じて、ビルメンテナンス業は安定した市場を持つものの、人材不足や技術革新への対応が成長の鍵を握る。これらの課題に果敢に挑戦し、課題を克服する企業が、今後の業界をリードすることになるだろう。当社にはそのポテンシャルがあるので、今後も期待できる。

活動を振り返って

review

事業者の声

代表取締役 高木 一成



事業承継について全く無知だった私が、何度もお時間を割いて頂き、株式譲渡による第三者承継にまで辿りつく事ができたのは、多田様と出会うことができたからだと感謝しております。おかげさまで、弊社は既存建物の調査・診断から、リニューアルまでの改修を一連の流れで請負い、地域に貢献していく企業を目指すことができました。これからも引き続きご支援宜しくお願い致します。

支援者の声

えひめ産業振興財団
プロジェクトマネージャー
多田 稔



高木社長は、第三者承継を実現する過程で、幾度となく困難に直面されました。しかし、そのたびに課題と誠実に向き合い、乗り越えられたご努力に深く敬意を表します。私も支援者として、何とか課題解決に導きたいと思わせる案件でした。苦勞して築かれた新たな経営体制のもと、貴社がさらなる飛躍を遂げられることを期待しております。